

## 英国での本屋めぐり ‘Blissful Browsing’

私の部屋の使い古したソファの横には、過去 2 年間に読んだ全ての本が、3 つの山にきちんと積み重ねられています。読み終わるたびに積んでいくので、少しずつ満足感と共に高くなっていきます。2、3 ヶ月中に数冊のペンギンクラシックを読破し、コーヒーテーブルの代わりに、マグカップを置けるような高さになるでしょう。(典型的なスコットランド人の儉約術かな。)

このように本に夢中になるのは、読書好きな国民である我々英国人にとっては珍しいことではありません。私たちは本が好きだけでなく、書店も大好きです。私も書店に行き、書棚を見回し、表紙に沿って手を走らせ、実際に本の重さやサイズを確かめてから買い求めるのが好きなので、オンラインで本を買ったことはありません。インターネットの登場で、書店は消えていくという不吉な予測があるものの、書店は状況に合わせて変化しながら生き残り、中にはとても繁盛しているところもあります。映画「ノッティング・ヒルの恋人」の主人公 ヒュー・グラントがノッティング・ヒルで経営する書店は、実際、小売店が雑然と集まり、ロマンティックとは正反対のイメージである学術書の山や、かび臭さ、魅力的でエキセントリックな店主が集まるようなところにあります。

英国で最も有名な書店はロンドンのチャリングクロスロードにある「Foyles」でしょう。無計画でどうしようもないほど雑然とした書棚で有名でしたが、今では繁盛しています。訪れてみると、温かく迎えられ、きちんと対応され、ずっと探していた本さえ見つかるかもしれません。ノッティング・ヒルでは、「Books for Cooks」、子供向けでは、ハーンヒルにある「Tales on Moon Lane」がお薦めです。その他、メルボルンにある「Daunt's」は旅行書が豊富で、ブルームズベリーには漫画本専門として、「Gosh! 」という書店があります。

英国の中心地を離れた地方にも、本で有名な拠点が 2 ヶ所あります。毎年夏に開催される大規模なブック・フェスティバル(クリントン元大統領は、'Woodstock for brains' とコメントしましたが)で有名なウェールズのヘイ・オン・ワイ Haye-on-Wye はそのひとつ。本好きにとって楽園のようなこの町では、自ら、'King of Wye' と宣言したリチャード・ブースのような本好きによって作り出された 'Blissful Browsing (幸せな立ち読み)' を満喫できます。ヘイ・オン・ワイには、様々な専門書、英国、世界的にも唯一ではないかと思われるような詩などを扱っている書店があり、'King of Wye' リチャード・ブースも、彼自身の書店を経営しています。

もう 1 つの書店のメッカは、スコットランドのダムフリース・アンド・ギャラウェイにある公式に認定された本の町ウィグタウン Wigtown。

こちらには、メインストリートだけで、6 つの書店があり、Box of Frogs (子供向けの本) や Reading for Lasses(女性の為の本)といった楽しい名前を持った合計 14 の風変わりな面白い書店があります。毎年 9 月には文学のフェスティバルを開催しています。

これらの書店では、売っている本を知り尽くし愛してやまない店主がいて(ヒュー・グラントとは似てないかもしれませんが、)過ぎ去ったよき時代を思い出させます。ただ、単に本を袋にいれ、1 日に「ありがとうございます」を 500 回も繰り返す書店とは違うのです。彼らの多くは、知識あるアドバイスやジョークを交えた本の四方山話や、ときにはリラックスするための椅子やソファ、おまけに温かい飲み物を出すなど真のサービスができないから、オンラインでは本を販売しないと断言しています。オンラインでの 1 クリックショッピングとは、全く異なる世界がありますね。

英国旅行の際には、書店をぜひ覗いてみては如何でしょうか？その前に、読書をして、私のようにオリジナルのコーヒーテーブル作りに挑戦するのもお勧めです！

### 参考情報

<http://www.telegraph.co.uk/culture/books/7598617/Britains-best-independent-bookshops.html>